



モデル事業

いまこん通信 Vol.11

平成 26 年 8 月発行
明石コミュニティ創造協会
TEL : 078-918-5248

コミ創よりモデル事業が「今こんな感じ」とお伝えする通信紙

Model Reports

江井島 ●●● 広報部／福祉部／環境部／安全部／交流部 組織再編を具体的にスタート

「まちづくりを担う人材が不足している」。昨年度から、この課題を解消すべく、多くの住民が参加できる組織づくりを検討してきた江井島。5月の総会で新たな体制で取り組む方針を決定し、組織再編について役員会とまちづくりプロジェクトで協議している。

さまざまな意見が出されるなかで、今後どのように進めていくのか、具体的なメンバーや体制を決定する方向で議論した。

公募開始は 8 月

事務局員 2 名の公募を 8 月に開始、9 月に面接、10 月に採用を決定することになった。組織再編と地域事務局支援事業を並行して進め、まちづくりの仕組みを構築していく。

地域事務局員に必要な役割を考える

一方、組織強化の一環として地域の事務局を地域で運営する「地域事務局支援事業」にも取り組んでいる。事務局の役割を検討するなかで、書類作成や会計などの事務処理だけでなく、まちづくりには各種団体や個人の力が必要なことから、それらを調整する役割が重要であることを共有し、具体的な公募内容を決めた。



テーマごとに分かれて意見交換する (7 月 11 日)

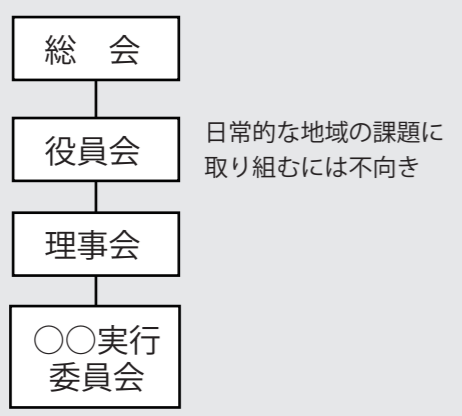
部会体制をどう進めていくか

まず、昨年度に実施した住民アンケートの結果をもとに校区に必要な取り組みを検討するため、7 月 11 日に全体会を開催し、総勢 58 名が参加した。福祉・環境・安全・交流など 4 つのテーマに分かれ話し合った。

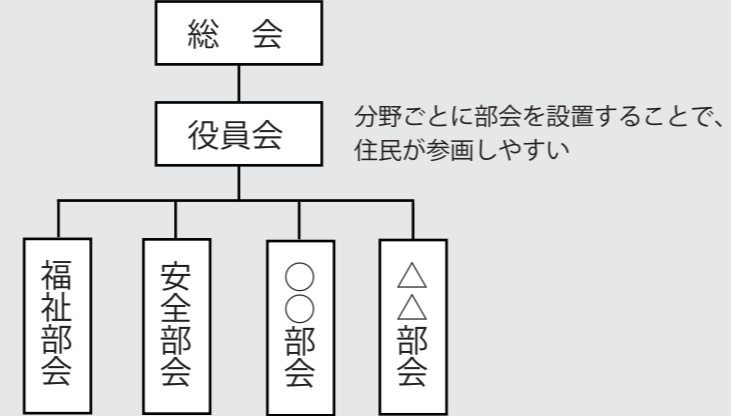
組織体制の改変に向けて

松が丘、江井島、魚住の 3 校区では、住民が参画しやすい組織体制への見直しを進めています。3 校区ともこれまでの実行委員会制から分野ごとに話し合いの場を持つ部会体制を検討中です。

＜＜実行委員会制＞＞



＜＜部会体制＞＞



＜平成 26 年 7 月 31 日時点＞ 明石コミュニティ創造協会が 6 月～7 月のモデル事業の動きを取材しました。

松が丘 ●●● まちづくりビジョンが決定！ 組織体制の見直しに向けて

未来会議を通じて「交流できるまち」の重要性が見えてきた松が丘校区。6 月 28 日の第 3 回未来会議では、まちづくりビジョンが「住民みんなが交流し助け合える松が丘」に決定。ビジョンの実現に向けて必要な取り組みについて意見交換を行った。テーマごとにさまざまな意見が出され、今後は取り組みの整理が必要だ。「みんながまちづくりに関わることが大切」との声も挙がっており、自治会をはじめとした校区内の各種団体との連携が求められている。

との情報交換会を開催した。未来会議での「地域の若い世代の人たちの意見も大切にしたい」との意見を受けて企画されたものだ。

現状のまちづくりの動きや、子育て世代が日頃地域で感じていることなどを話し合った。まちづくりに関心はあるがどのように関わればよいかわからない人が多いことや、まちづくり協議会の構成団体の連携が十分に取れていないことなどを再確認した。「テーマごとに集まれる場があれば、活動の得意な人や関心を持った人が関わりやすいのではないか」という組織体制の見直しにつながる意見も出ており、情報交換会は有意義になった。

組織体制を検討中

これまでの未来会議や PTA との情報交換会を通じて、住民みんながまちづくりに関わる組織体制が求められている。プロジェクトチームでは他の地域の事例も参考にしながら、松が丘にあった体制について議論を積み重ねている。



P T A と情報交換 (7 月 16 日)

子育て世代の意識

7 月 16 日、まちづくり協議会は幼稚園・小学校 PTA の役員

魚住 ●●● 魚住の目指すべきまちづくりへ 組織の仕組みづくりを検討！

6 月 29 日に第 3 回座談会が開催された。今回の座談会の目的は大きく 2 つある。1 つ目は第 2 回座談会で出てきた魚住校区のビジョンを確定させること。2 つ目はビジョンを実現するための具体的な取り組みについて話し合うことである。和気あいあいとした雰囲気の中、熱い議論が交わされた。

る、いつまでも安心して住み続けたいまち」というまちづくりビジョンができあがった。

次に、ビジョン実現に向けてどんな取り組みが必要だろうか？各グループに分かれて、「自然」「世代間交流」など、テーマごとに様々な取り組みが出し合われた。

魚住校区のまちづくりビジョンが決定！

魚住校区にとって「自然」「世代間交流」「安全安心」の 3 つが特に重要なキーワードであることを改めて参加者全員で確認。この 3 つの言葉をまとめ、「人と人が交流し、人と自然が共生す

取り組みの実現に向けて

今後は、これらの取り組みをどう実行に移すかという体制づくりが最も重要である。現状は、いろいろな人や団体が地域でバラバラに活動をしている上に、単体での活動は会員の減少等により少しずつ難しくなっている。これからは、地域



座談会で組織づくりを考えるみなさん (6 月 29 日)

で活動する団体や人がテーマ別に連携しながら様々な取り組みを行っていくことが重要である。

活発に、かつ長く継続していただける組織体制の構築に向けて、いよいよ本格的に規約改正やまちづくり計画書立案に動き出す予定。